

## 入選

### チーム部門

選者 大森静佳氏  
小島なお氏

君という色紙にはもう空気がない 私という色紙には何も無い

青森明の星高等学校 二年 黒瀧 晶

深淵を望遠鏡で覗く君吞まれないよう裾をつかんだ

宮城県気仙沼高等学校 一年 佐藤 みちる

哲学がしきりに旅に出なさいと脅してきてさ 紙の自転車

立教池袋高等学校 三年 岡部 優司

輝きを知らないままで深海も布団の中もやさしい寝息

立教池袋高等学校 三年 望月 陸玖

病室の空を飛びたい折り紙のピンクの羽を駆ける大好き

神奈川県立光陵高等学校 一年 鳥野 空音

雨粒の死期ばかり見てこの空の一番深いところを知らず

神奈川県立光陵高等学校 二年 池野 弘葉

十七の深さを春に問うている前髪を手で整えながら

神奈川県立光陵高等学校 二年 檜下 小春

もう髪を染めないと言う姉の食う冷やし中華にのっぺりとハム

名古屋高等学校 二年 加納 輝一

隣席の親子の食べてる定食が花火のようでおばちゃんを呼ぶ

高田高等学校 二年 加藤 晴香

古代より流るる塩分濃度にて腹の底に深海魚見ゆ

高田高等学校 二年 治田 優花

四足のつつかけ並べ月食の写真撮る姉姉を撮る父

大阪府立咲くやこの花高等学校 一年 柴田 さえ

### 個人部門

選者 大森静佳氏  
小島なお氏

真っ暗な廊下を照らす蛍光灯が無限に続くような二時半

宮城県気仙沼高等学校 一年 昆野 瑠音

じいちゃんが旅立った夜金星のとなりに知らない星を見つけた

宮城県気仙沼高等学校 一年 佐藤 みちる

共食いのウーパールーパー 右足がない分あなたをちゃんと愛せた

宮城県気仙沼高等学校 二年 昆野 永遠

君のボタン欲しいと言えず色紙書く桜色したこれが春だなんて

茨城県立結城第二高等学校 二年 富田 真綾

やわらかな紙風船に吹き入れる僕らが生きる理由と証

星野高等学校 二年 金光 舞

君からの転校話は突然にスイカの種と好きが絡まる

星野高等学校 三年 佐野 史絵那

いつもより一本遅いバスに乗る 窓に誰かが寝てた痕跡

東京都立豊多摩高等学校 三年 佐藤 七海

改札の中のひよこは昨日からおとなになった君に鳴かない

東京都立豊多摩高等学校 三年 浪花 小楨

絵を見ずにコアラのマーチを食べるような罪を重ねてばかりの日々だ

東京都立武蔵高等学校 一年 安田 湖夏

ロイコクロリディウムが見ていた白昼夢 半壊の折り畳み傘を手にして

渋谷教育学園渋谷高等学校 一年 植山 魁

朝起きて学校行って夜に寝る狭い世界で泣かないでくれ

東京家政学院高等学校 一年 武富 愛音

一匹狼連合をつくろう狼たちの絶滅前に

立教池袋高等学校 三年 小幡 曜

クロールの推進力が欲しいから水彩絵の具の青を手取る

神奈川県立光陵高等学校 一年 猪野田 涼奈

昼寝はね酢豚の中のパインくらいなくちゃならないですよ先生

神奈川県立光陵高等学校 一年 佐野 晃太

フィボナッチ数列が好きと言う君は深海魚より生態不明

神奈川県立光陵高等学校 二年 坂本 桃花

友達のくれた紙鉄砲が響く夕陽まみれの虚ろな帰路に

高田高等学校 二年 加藤 晴香

着古した「仕方ないよ」を身につけて深海みたいな夜で馬鹿ンス

高田高等学校 二年 治田 優花

「スプートニクの恋人」をアイマスク眠る彼女の白い上靴

立命館高等学校 三年 尾島 蓮瑛

君は言うクラゲになれたらいいのと忘れる気など一つもないのに

鳥取県立鳥取東高等学校 一年 田中 笑瑠

いないはず分かっているも見つめてる空にのぼった猫を探して

鳥取県立鳥取東高等学校 一年 田中 萌花

木の下で雲を見つめる目を閉じて黒い世界で時が流れる

鳥取県立鳥取東高等学校 一年 徳本 美佑

授業中大きな空を見上げると私みたいに眠そうな雲

鳥取県立鳥取東高等学校 一年 山根 映

すすります。つゆが跳ねるも気に留めず青々とした午後一時のこと

鳥取県立鳥取東高等学校 一年 山根 健翔

返却日明日に迫った推理小説いまだ事件もおこっていない

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 小谷 夏楓

音読をあてられキミは目を覚ます風にながれる塩素の匂い

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 中島 幹太

何回も靴を逆さにしてみても離れられない鳥取砂丘

鳥取県立鳥取東高等学校 三年 井上 貴征

夢を見てほおをたたいて目を開く18歳の深夜、関ヶ原

鳥取県立鳥取東高等学校 三年 上野 桜

夏服の袖のトンネルとおり抜けちよつとひりつく新しい私

鳥取県立鳥取東高等学校 三年 荻野 風花

十人で補助席に出すトランプは私がいちばん早く上がった

鳥取県立鳥取東高等学校 三年 尾崎 愛奈

窓を見る太陽隠す一軒家机に向かう僕は受験生

鳥取県立鳥取東高等学校 三年 谷口 貴一

水中の絵の具のように変化する茜色の雲部活帰りに

鳥取県立鳥取西高等学校 一年 松田 紗季

泣きながら微笑んでいる不器用な君を器用にしたのは僕だ

鳥根県立出雲高等学校 二年 伊藤 葵

秋風を待っていたんだ落ち葉たちいつせいに舞い雀になった

第一学院高等学校 三年 日高 優衣

冬の日の凍てつく空気僕だけに肺の在処を覚えてくれる

昭和薬科大学附属高校 二年 平岡 しいな